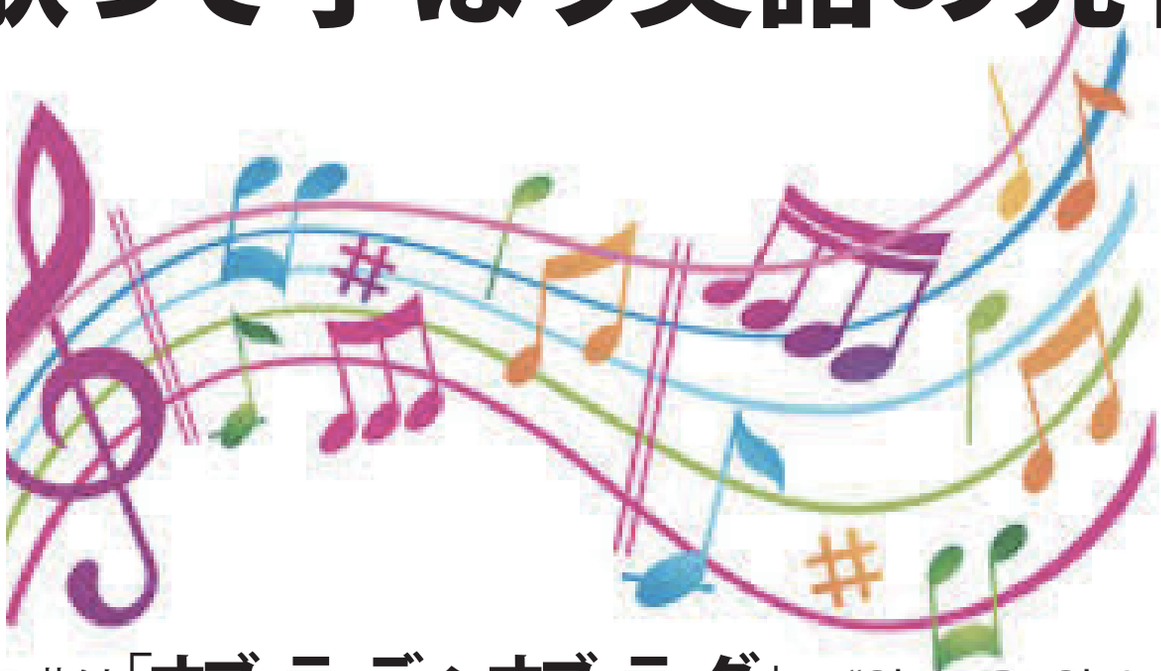
千二地区公民館 2018 主催講座

Let's Sing a Song in English

歌って学ぼう英語の発音



今回の曲は「**オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ**」 "Ob-La-Di, Ob-La-Da"

「**虹の彼方に**」 "Over the Rainbow"

みんな知ってるあの歌を英語で歌いましょう。
発音のコツはもちろん、言葉の意味や背景についても学ぶ講座です。

教えてくれる人　李春喜さん（関西大学外国語学部教授）
日時　９月９日（日）　10:30～12:30
場所　千二地区公民館大会議室
費用　無料
申し込み　電話か直接公民館まで（受付中です）

千二地区公民館　千里山東 2-19-23　TEL/FAX: 06-6389-7100
受付時間　10:00～17:00(12:00～13:00 は休憩）　火曜日休館

講師の李春喜先生にインタビューしました。抜粋してお届けします。

9月9日（日）午前10時30分から3回目の講座が実施されます。それに先立ってインタビューを試みました。「なんで、歌、うたうのか？」、「英語の勉強はどうするのがいいのか？」など聞いてみました。

今日は講座についてちょっと真面目に講師の声を聞いてみたいと思いまして、お出でいただきました。まず、大学の英語の授業で歌をうたっておられるそうで、その動機あたりから伺いたいと思います。

実はこの間も「先生はどうして授業で歌をうたわせるのか聞きたい」と言ってきた学生がいたんです。そこで「そんな深く考えてないよ」って答えたんですが・・・。

大学の講義で、授業で歌を歌うわけでしょ？

「それを聞きたい」と言われてドキッとして、研究室に呼んで「そんなの（動機）ないよ」って答えたんです。
話し出したら長くなるし、「言語とは何か」、「歌をうたうとはどういうことか」みたいなことを話し出すと、大きな話しになるので。だから「歌、うたったら楽しいやろ」とだけ答えておきました。
英語の勉強というと、中学で受験英語を勉強して、高校でも受験英語を勉強して、高校に入ったら大学受験のために英語の勉強をして、大学に入っても就活のために英語勉強して、という感じで、英語の勉強の仕方が偏っていると思うんです。日本という社会の中ではふつうなのかもしれないけれど、世界的に見たら、私たちの英語の勉強の仕方ってかなり変ですよ。受験英語とか、TOEIC対策の英語とか、英検対策の英語とか、日本だけじゃないですか。楽しくないですよ。
「何かに役に立つ」「便利だから」「実用的だから」という理由で英語の勉強をするのだったら、それはもう機械でいいんですよ、これからは。

歌をうたうっていう行為は、「ハンバーガー注文する」とか「道を聞く」とか、何か必要があってすることではないですよね。必要っていう意味なら、歌なんかうたわなくてもいいわけですから。でもどうして歌をうたうんだろうって。そういうところからですかね。
よく英会話の練習で、「じゃあ、ここはファーストフードの店と仮定して、ハンバーガーを注文する練習をしましょう」というように、状況別に英会話の練習をするテキストがあります。“Can I help you?”、“May I help you?”　と店の人が言います。それに対して、“I’ d like to have one cheeseburger and one small coke” と答える。「はい、じゃあ、一緒にやってみましょう」みたいな。でも、そんなのいくら練習しても――無駄じゃないけど――それ、じゃあ、アメリカに行って、ファーストフード店で、一言一句、そのとおりに英語を使うかというと、誰もそんなこと言わないわけです。アメリカのマクドナルド行って、そのとおりに会話が運ぶことなんてまずあり得ないですよ。でも、ここで、エルビス・プレスリーの歌を一曲、今、歌えるようになったら、世界中どこへ行っても、そのエルビス・プレスリーの歌を知っている人と一緒にうたえるじゃないですか、その場で。そういう意味では、そっちの方が楽しくないですか？
マクドナルドでハンバーガーを注文するシチュエーションの英会話のやりとりがまったく無駄だとは言いませんが、そんなの、アメリカへ行ったら、最初の一語から違うと思うんです。でもここでビートルズの曲を一曲まるまるうたえたら、それはそのまま、世界中で世界中の人たちと一緒にうたえるじゃないですか。歌をうたえる方がいいと思いませんか？そういう話しをしたんです。

読み書きというのは脳がする行為ですよね、読んだり書いたりするというのは、じーっと黙って。でも、話す聞くという行為は、当たり前ですけど、話すときは喉から、声から、舌から、舌の先から、口の形から、ものすごく身体的なことです。それで、聞くというのは、受動的なことだと思っていますが、耳のどこかで音が響いて、その音を神経が脳に伝えて――私には詳しいことは分かりませんけど――音が聞き取れるようになる。そういう意味では、日本の英語教育はちょっと脳の活動に偏り過ぎている。でも、脳の活動と同じくらい、というか、むしろそれ以上に身体を使う――言語習得において身体を使う――ということを意識しないとダメだと思うんです。それで、色々なことができると思うのですが、その一つとして歌をうたう。「みんな英会話できるようになりたいやろ？英語が聞き取れるようになりたいやろ？それやったらもっと身体を使わなきゃダメだ」ということで、もう少し身体を意識するという意味でも歌はいい、そんな話しをしたんですけどね。

インタビューの全文は公民館のホームページでお読みいただけます。http://sen2com.com からどうぞ。